

# 数 専 会 だ よ り

発行人 東京女子大学同窓会数専会会長 松本友子

〒167-0041 東京都杉並区善福寺 2-23-11

Tel. 03-3395-4448 Fax. 03-3395-0084

<http://www.geocities.jp/twcumath/index.html>

## 【 総会報告 】

日時 2014年5月31日(土)

於 72年館1階ラウンジ

次第

### 1部 総会議事

1. 会長挨拶
2. 各部活動報告
3. 2013年度 決算報告
4. 会計監査報告
5. 2014年度 予算案
6. 夏季研修会について
7. 研究部講座報告
8. 新常任幹事について
9. 同窓会より
10. 秋の講演会について

### 2部 ハンドベル演奏会

東京女子大学ハンドベルクワイヤ

Felice (フェリーチェ) による演奏会

### 1部 総会議事

2. 各部活動報告 (6ページ参照)
3. 決算報告 (6ページ参照)
4. 会計監査報告 (6ページ参照)
5. 予算案 (6ページ参照)
6. 夏季研修会について

東京女子大学 72年館1階ラウンジにて開催されました(2ページ参照)。

### 7. 研究部講座報告

各講座の代表者より講座の内容、会費等が紹介されました。

現在の研究部講座は、7ページ参照。

### 8. 新常任幹事について

◎印の方々が新しく推薦され、総会で選出、承認されました。

会長、副会長、常任幹事は次のとおり。

会長	松本 友子 (73)
副会長	小畑 葉子 (69)
	大井 美智子 (74)
庶務	◎波多野 滋子 (69)
厚生	◎前田 啓子 (75)
研究	大井 美智子 (74)
	廣瀬 加代子 (74)
	平井 真理 (74)
広報	中陳 きよみ (70)
	武田 紀子 (70)
	◎今北 信子 (75)
会計	青柳 陽子 (76)
	可兒 恵子 (76)
書記	岩崎 えり子 (78)
HP担当	渡辺 朋子 (78)
会計監査	吉益 美恵子 (67)
	大島 治美 (77)

### 9. 同窓会より

大学は4年後の2018年創立100周年を迎える。同窓会では2009年より種々の企画を実行し、その収益を積み立てている。今年度は松岡和子さん、井村君恵さんの講演会、天満敦子さんのデュオコンサート等を企画している。今年60回を迎える大学主催のメサイアを同窓会では後援をし、積極的に広報に務める。また、大学のエンパワーメントセンターに協力し、同窓生の充実した社会生活を応援する。



## 2部 ハンドベル演奏会

### プログラム

- ♪・くるみ割り人形
- ♪・星に願いを
- ♪・涙そうそう
- ♪・君をのせて
- ♪・ガラリヤの風薫る丘で
- ♪・カノン
- ♪・Hymn to Joy

ベルの美しい音色が72年館を満たしました。VERA祭、そして、クリスマスにコンサートを行い、チームワーク抜群の母校公認サークルです。東日本大震災では、ボランティアとして岩手県大槌町で演奏し、その報告を大学の宗教週間にチャペルで行いました。今年も大槌町でコンサートを開き、子供たちへの学習支援もし、積極的に活動します。静寂の夜空の本館前、クリスマスツリー点灯式の演奏は殊に印象に残ります。



## 【ごあいさつ】

会長 松本 友子 (73)

日頃は数専会の活動にご理解、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

皆様のご協力により、今年も「数専会だより」に充実した記事を寄稿いただく事ができました。また研修会・講演会には皆様に関心をお寄せいただき、今年度も素晴らしい講師の方にお越しいただいています。これから多くの方々に興味を持っていただける会にしていきたいと思っておりますので、どうぞご意見をお寄せください。

数専会の活動がより充実したものとなり、世代を超えた交流の場となりますよう、幹事一同、力を合わせて努力して参りたいと思っております。

これからどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 【秋の講演会のご案内】

日時 2014年11月15日(土) 午後1時半～3時

場所 72年館2階集会室

講師 館 知宏氏

東京大学大学院総合文化研究科

広域システム科学系

情報・図形科学部会助教

演題 『計算折り紙と工学応用』

会費 1,000円 (学生は無料)

お申し込み・お問い合わせ

Tel \*\*\*\*\*

E-mail \*\*\*\*\*

松本友子

準備の都合上、必ずご連絡ください。

【夏季研修会】

日時 2014年7月19日(土)

於 東京女子大学72年館1階ラウンジ

\*講演要旨(3ページ)

\*夏季研修会の感想を下記に掲載

プログラム

◇11時半～13時

昼食・懇親会

◇13時半～15時半

『地震を知って備える』

「地震は、どうして起こるのだろうか？」これまで起こった地震を通して地震について解説。

また、地震が起こってしまったなら、「災害を最小限に食い止めるには」を考えます。

名古屋大学大学院環境学研究科附属

地震火山研究センター 准教授

(名古屋大学減災連携研究センター兼任)

山中 佳子氏



講師紹介

◇山中 佳子氏

1987年 東京女子大学文理学部数理学科卒業

1993年 東京大学大学院地球物理学博士課程修了

【夏季研修会に参加して】

地震と仲良く共存しよう

島津満里子 (70)

山中佳子先生は大変気さくな感じで現れた。バランスのとれた大柄な感じのさわやかな方である。多分、殆どノーメイクで、肩までのまっすぐな髪はきつと学生の頃からこんな感じで頑張っていたのではと思わせた。

講演は「名古屋大の山中です。」という元気の良いお声でスタート。「多分、同級生3人以上は皆様先輩で、この会場で一番若い後輩だと思います。」と恐縮なさりながらも、はきはきと話されるのはやはり、3.11 東北地方太平洋沖地震のこと。お話は段々専門分野になって、「日本の地震は大体2つに分かれます。1つは震源地が海底の地震、プレートの境界線上で起こる地震です。地球はいくつかの大きなプレートで覆われていて、これがそのプレートの境界線を表した図ですが、マグニチュード5以上の地震の起こった場所を赤い点で表した図と重ねますと、これがぴったり重なるんですね。」思わず皆さんからオーっという驚きの声上がる。「この海底の地震の例が関東地震、東北地方太平洋沖地震で、一方陸の中が震源地の地震は淡路の兵庫県南部地震や濃尾地震などです。日本は世界の陸地の0.3%しかありませんが、世界で発生する地震のおよそ10%が日本付近で起こる。だから日本では地震は避けて通れない問題なのです。これはつまり地震と共存して仲良く生き延びるしかないのだということです。」そうなのか、避けて通れない地震、だったら仲良く共存をというおっしゃりに私はとても驚いた。そして直ぐに納得したのだ。関東地震以降、日本ではその内来るかもしれない大きな地震に怯えながら、直視することを避けてきたような気がする。そして起こった3.11。「もう本気で向き合うしかない！」それが“地震と仲良く共存”という言葉になってこの気鋭の学者を奮い立たせているのだと。そして山中先生は「それは私たち日本に住む一人一人が地震に対する正しい基本的な知識を知って、自分で判断して行動しようということです。」と笑顔を見せた。

そして、地震についての正しい知識として、震度と

マグニチュードの違い、これを電球(震源)の大きさ(マグニチュード)とそれに照らされたいろいろな場所の明るさ(震度)に例えた。これは本当にわかりやすい。電球のワット数(マグニチュード)は決まっているが、明るさ(震度)は場所によっていろいろ違う。

また、軟弱地盤をプリン、固い地盤を羊羹に例え、プリンと羊羹の上に建物の模型を乗せて揺らしてみせる実験映像を紹介、会場の皆さんはくすくす笑いながら、あっという間に倒れたプリンの上の建物を見て、地盤の大切さを実感。

他にも高層ビルの長周期振動の問題、津波に対する堤防は必要か、また同じ地域の過去の地震を古文書等で調べる事の重要性、どの話にも惹きつけられた。

最後に緊急地震速報の仕組みについて説明されて、数秒あれば身を守ることが出来ると話されたが、これは大変に説得力があるものだった。

つまり、地震の最初のP波が来てから、S波が来て揺れだすまでの時間差を使って、情報を出そうというものである。PとSの時間差が10秒だとすると、 $10 \times 8 = 80\text{km}$ が震源からの距離。P波で、緊急地震速報を聞いたなら、「火を消して、避難袋を持って、ドアを開けて、テーブルの下に入る」これは、私が日頃イメージしている行動だが、とっさの時にこれだけの事が出来るだろうか。先生は、「2、3秒でも出来ることはあります。結局は自分の判断、今地震が起きたらどうしようとかよっと意識してもらおう。考えておくことが大切です。」と、きっぱりとおっしゃった。

私は高校2年の時に新潟地震を体験している(1964年6月)。決して忘れる事の出来ない地震だが、昼過ぎ1時頃の地震だったにも関わらず、市内での火災が一件も無かったことが新潟市民の誇りとなった。当時天然ガスをどの家でも使用していて、地震と同時に供給を止めた事業者の行為は表彰された。そうだ！地震を防ぐことはできないかも知れないが、それによって派生する被害を最小限に食い止めることは可能なのだ。山中先生の「地震と仲良く共存」この言葉を日本中に伝えたい。

私たち数理学科の後輩の中に、こんなに頼もしい地震研究者がいらっしゃることを本当に嬉しく誇らしく思う一時だった。

## 地震を知って備える

(山中佳子先生ご寄稿による夏季研修会講演要旨)

日本付近では世界で発生する地震のおよそ 10%が発生します。そんな地震国日本に住むなら地震から逃げることはできません。緊急地震速報が出されるようになった今日、基本的な地震の知識を正しく使いながら自分で判断をして避難行動をすることが必要です。

最近、古文書から江戸時代に発生した宝永南海地震(1707年)や安政東海地震、安政南海地震(1854年)について調べています。南海トラフでは 100~200 年程度の間隔で繰り返し巨大地震が発生しています。そのため地元の人たちは地震を感じたらどう行動を取るかを代々伝えてきていたようです。場所によって災害は異なりますが、過去を紐解くと場所毎に災害の傾向は似ています。過去の教えに現代の知識、知恵をプラスし、日頃から「今ここで緊急地震速報がでたらどう行動を取るべきか」を考える訓練をするようにしましょう。

▼地震の揺れ：地震の揺れの大きさを表すのが震度です。震度は基本的には震源に近いほど大きくなります。しかし地表付近の地盤の柔らかさや地形によって揺れが増幅することがあります。かつて海や川、沼、田んぼだったところを埋め立てた土地や盛土をしているところなどは廻りより震度が大きくなる傾向があります。大正の関東地震での被害を見ても、赤坂の旧溜池や旧古川池、旧千束池、旧大池を埋め立てたところでは家屋の倒壊が多かったことが知られています。地名にもかつての地形を表す単語が残っていることも多いです。内閣府から表層地盤のゆれやすさ全国マップが公開されていますので自分が住んでいるところがどうか調べてみるといいでしょう。

地震のゆれやすさ全国マップ

<http://www.bousai.go.jp/kohou/oshirase/h17/yureyasusa/>

▼長周期地震動：気象庁により発表される震度は、以前は体感で決められており木造家屋などの低層家屋の揺れをよく表しています。震度に表れる短周期の波は減衰し遠くまで伝わりませんが、地震波に含まれる長周期成分は減衰しにくく、遠くまで伝わります。近年建物が高層化してきました。建物はそれぞれ固有周期を持っていて、地震の揺れと固有周期が近いと共振して大きな影響がでます。従って高層建築物は遠いところで起きた巨大地震が出した長周期地震動により共振して被害がでるといことも起こってきました。免震構造か耐震構造かによっても揺れは異なります。高層建築でも家具の固定は重要です。

▼緊急地震速報：地震波はカタカタという最初の揺れ(P 波)の後に大きな横揺れ(S 波)が来ます。S 波は P 波より伝播速度が遅いので、この伝播速度の差を利用して P 波を検知した段階で S 波が来る前に揺れを予測しようというものです。震源近傍では P 波の直後に S 波が来るので間に合いませんが、震源からの距離が離れれば離れるほど、S 波が来るまでの時間があるので、その間にできる行動をして災害を最小限にしようというものです。気象庁では地震発生直後に各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し最大震度が 5 弱以上の揺れが予想される場合、震度 4 以上が予想される地域に緊急地震速報を出します。緊急地震速報が出されるとテレビやラジオ、携帯、スマホなどに情報が流れます。

▼自分の身は自分で守る：2011 年東北地方太平洋沖地震では津波で多くの被害がでました。ある地域では窓の少ない体育館が避難場所であったため体育館の中では海の様子がわからず、気が付いた時には避難所まで津波がやってきて多くの方が亡くなってしまったそうです。一方、窓の多い寺が避難所であった方々は海の様子が見え、迫ってくる津波を見てさらに裏山へ逃げて助かったということです。堤防があったことで津波のエネルギーが吸収され陸地への侵入を遅らせたメリットはありましたが、堤防を過信して亡くなった命もたくさんありました。今も高い堤防を築く話がされていますが、高い堤防があっても自分の五感を信じ避難することが重要です。1993 年北海道南西沖地震でも津波で奥尻島の住民が多数亡くなり、島を堤防で囲い高台移転をしましたが、それにより森の栄養分が海に流れ出ず海が死んでしまい、観光客も減り島は高齢化しているそうです。災害に対して楽をするということではできません。構造物は我々の避難の助けにはなっても完全に助けてくれる物ではありません。過信をせず、自分の身は自分で守ることが必要です。

緊急地震速報が出た時に自分がどこにいるかはわかりません。緊急地震速報が出されて S 波の大きな揺れが来るまでの数秒間で何ができるでしょうか？この数秒を活かすには日頃の訓練、イメージトレーニングが必要です。買い物に行ったとき、バスを待っているとき、図書館にいるとき、家(居間、お風呂、トイレなど)にいるときなどちょっとした時間にふと考える訓練をしましょう。今ここで緊急地震速報が鳴ったらどこに避難しようか？ということの日頃から考えているだけで反応は違ってくるはずですよ。

## 数理科学科で数学を教えて考えること

東京女子大学 現代教養学部 数理科学科主任  
教授 宮地 晶彦

1995年4月に東京女子大に就任してから今年でもう20年めになる。数理科学科は数理科学科と名前を変えたが、今の数理科学科の教員のうちでは助手の人たちを除くと私が一番の古株で、数学専攻の教員の中では最年長になってしまった。今回、数専会から何か書いてくれと依頼された機会に、数理科学科と数理科学科の授業や数学のことを振り返って、少しだけ書いてみたい。

1995年に最初に1年生を対象にした微分積分の授業では、実数の連続性の公理から始めて実数の性質や連続関数の性質を証明するという、いわゆるイプシロン・デルタ論法を詳しく講義した。その頃は、数学の内容をよく整理して簡潔に説明する講義ばかりを心がけて、わかりやすく説明したつもりであったが、しかし、講義は数理科学科の1年生には難しすぎた。学生は講義のときは静かに聞いて熱心にノートをとっているようであったが、ほとんど理解してはいなかった。その後、高校の教育課程の改正や、数理科学科の入学試験方法の変更などから、昔の高校の数Ⅲと数Cを履修しないで入学してくる学生が増えたこともあり、私の微分積分の講義もだんだん形を変えた。簡単に言うと、理論よりも現実と接する、という方針に徐々に変更してきた。微分積分の理論がどのような基礎の上に構築されるにせよ、それが現実に応用されて大変大きな成果があるのは、理論の基礎がしっかりしているためではなく、実際に我々の身近にある関数について、例えば、サインの微分がコサインになり、コサインの微分がマイナス・サインになるなど、簡単な関数の微分が簡単な関数になるという事実に基づいている。そういう考えから、微分積分の授業では、基本的な関数の性質を、その由来もこめて詳しく説明する、という方針に切り替えてきた。実際の講義は、多くの学生にとって高校3年の微分積分の授業の復習にあたる内容も多くなっただけで、具体的な関数の性質をいろいろな面から説明することを心がけている。数理科学科で学ぶ学生の半数は情報理学専攻の学生で、微分積分を道具として使うことも重要であるから、簡単な関数の重要な性質を良く理解して使えることが大切だと考えるようになった。

私自身が数学を仕事としてやることになった理由は何だろうと考えると、小さいころから算数は得意だったが、ひとつのきっかけ

となったのは、小学校5年か6年のときの或る算数の時間の体験にあったと思う。そのとき、担任のH先生が出した問題は、正確には忘れてしまったが、たしか、「お兄さんは96円持っています、弟は38円持っています、お兄さんから弟にいくら渡せば二人の金額が同じになりますか」というような問題だった。今から50年も前のことで、小学生で塾に行っている子は1人もなく、私も特に進んだ算数の勉強をしているわけではなかった。クラスの生徒がとにかくいろいろ計算して、何円だ、何円だという答えを言ってみてくれたけれど、みな正解でなかった。生徒は皆、正解を出そうと躍起になった。そのうちにたれかが29円という答えを出した。H先生が黒板で $96-29=67$ と $38+29=67$ をやってみて、正解だ、どうやって計算したの、と聞いた。答えた生徒はどうやったかわからないと答えた。H先生は、でも正解を出したのはすごいとほめた。その直後に私はどうやって計算すればよいのかに気がついた。私の考えたのは、 $(96+38) \div 2=67$ を計算して、 $96-67=29$ と計算するやりかただった。この方法を手をあげて発表したのがとてもうれしかった。その後、数学を専門にやるようになったのは、この体験があったからだと思う。今の小学生なら、こんな問題は、例えば兄と弟の金額を図に描くなどして、たちどころに正解を出すであろう。 $(96+38) \div 2$ を計算する方法は、ひとつの方法だが、兄と弟の所持金を合わせて半分にするということは現実には行わない手続きであるのに、それを行ったと考えるのが、私が初めて自分で考えた「数学」であったような気がする。これは私自身以外にはたわいもない話であるけれど、しかし、考えることの面白さと言う点で大切な点を含んでいると思う。つまり、結果を知っていることや結果を早く計算することなどは何も重要ではなくて、考えることが楽しいという体験である。そのときのH先生の授業は、教室中の生徒を熱狂させた素晴らしい授業だった。私は数理科学科でたくさん授業をしてきたが、学生に考えさせることは未だにうまくいかない。やり方を教えることや考え方を説明することはできても、学生に自分で考えさせることは難しい。おそらく人間的な面でいろいろ不足していることがあるからだろうと思う。まだまだ精進が中心である。

## 初期の数専会会長名簿と主な事柄

(昭和25年卒 北川幸子)

	氏名・卒年	就任期間	主な事柄
第1代	豊泉 しげ (S6卒)	S21～S30.8.5	昭和21年11月「阿部先生還暦祝賀会・数専会」の席上の提案により「数専会」が誕生。
第2代	山下 タミ (S9卒)	S30.8.5～S31.6.2	
第3代	豊泉 しげ (S6卒)	S31.6.2～S43.5.3	副会長；中屋澄子・堀すみ。研究部発足。昭和31年6月総会にて、短期大学部数理科の4年制学部への要望。昭和36年4月文理学部数理学科発足(4年制)。
第4代	中屋 澄子 (S7卒)	S43.5.3～S51.6.19	副会長；山本敦子・北川幸子。研究部の充実。
第5代	溝口 雪恵 (S9卒)	S51.6.19～S55.6.14	『東京女子大学数学専攻学科50年の歩み』編集・S52発刊 常任幹事制度の導入。会則の改正。

## 数専会の礎（忘却の彼方より）

北川 幸子 (50)

## 1. 戦前の数専会

安井てつ先生の「いかなる学問に進むものでも数理的能力が必要である。」とする信念と、平野雪枝先生・阿部八代太郎先生の熱意と実績により、昭和2年4年制の数学専攻部が創設され、当時既設の英専に加え国専・数専と3つの専攻部がスタートしました。

開設当時は学生数も少なく、まだクラス会を個別に開くこともなく、複数の学年が一緒に行動し、学期末などに集まっては先生方を交え数専会を開き、お茶を飲んでおしゃべりしたのが「数専会」のはじまりです。

その後、卒業生の送別会新入生の歓迎会と毎年開かれ、先生方との人間的ふれ合いの中から得たもの、学生同志の友情の芽生えなどから数専の伝統が培われていったのです。しかし、昭和16年12月の太平洋戦争開始後は数専会も開く余裕はなくなっていったようです。

## 2. 現在の数専会

昭和19年に還暦を迎えた阿部八代太郎先生のお祝いの会がのびのびになっていたことを契機に、昭和21年11月「阿部先生還暦祝賀会と数専会」が久方ぶりに開かれ席上、数学専攻の卒業生の親睦と勉強を兼ねた会をつくらうとの提案で、卒業生が縦につながる新しい会が誕生したのです。初代の会長として、第1回の卒業生(S6)豊泉しげさんが選出されました。名称は中々決まらず、「東京女子大学数学研究会」、「東京女子大学同窓会数学研究会」などと仮称して、とりあえずのスタートとなりました。その後昭和23年になって、適当な名称が見つかるまで昔使っていた「数専会」の名称を便宜上使うこととしました。

このように、数専会の名称は、紆余曲折しながら昭和29年6月26日の総会で会の名称を「東京女子大学同窓会数専会」とし会則も定め、正式に「数専会」が発足いたしました。しかし、現在の数専会は終戦後、同友の安否を求めて消息確認のための名簿づくりなどからの活動がはじまりであったことを忘れることはできません。

## 3. 数専会と私の接線

戦後の混沌とした流れも次第に落ち着き、私どもにも勉学に勤しむことができるときがおとずれてきました。戦後、疎開していた私はどうしても東京の学校を卒業したい一心で、家族に止められながらも、3月に戻りましたところ、卒業式直前になって4年制の都立女学校が5年制になることが認められ、1年間女学校生活をエンジョイすることとなり、ここで、数学教師のユニークな指導方法に引き込まれたのが数学との接線であり、以後、今日に至るまで「えにし」を持つことになったわけです。

卒業後は、内閣官房・総理府から厚生省（現厚生労働省）に職場を得て、統計情報部を最後に2児目の出産により退職しました。

数専会との出会いは、クラス幹事として参加している

中で、3代目の豊泉会長さん時代に研究部を立ち上げることになり、責任者として副会長の中屋澄子さんが就任され、当時私の家が中屋さんの近くであったことと「小河原先生の統計ゼミ」にも興味があったことから、研究部をお手伝いしたことから、20年以上にわたってかかわることになったわけです。

以後のエピソードとしては、出産後半年ほどしたときに、数専会に求人があり内容がわからないから、調べに行くことになり私が出向いたのが運のつきとなり、自分が就職するはめになり「ミイラ取りがミイラになる」の諺どおりとなりました。その職種は、当時メディア事業の振興の波が大きくなるとなりはじめた時代で、女子プログラマー、パンチャー等の監督スタッフの要請でした。卒業生に照会するにも厚生部がまだない時代でもあり、手だてがないまま、自分が参加することになってしまったのです。それが間違いのもとで、子育ては両親の手をかり仕事に没頭してしまいました。最初は、監督業と女子集団のまとめ役を期待されていたと思いますが、自分で仕事に参加してしまい、以後、SEの延長から国の行政分析、将来予測に至るまで各種の研究分析にかかわることになったわけです。職場歴も多彩で最初は「小学館のコンピュータアプリケーションズ」から「数理計画」、「日本システム」と移り、最後は大蔵省（現財務省）専管のシンクタンク「日本システム開発研究所」で主に国の行政分析に携わりました。行政機関としては文部省・厚生省・自治省・国土交通省・農林水産省・気象庁・人口分析 etc. と多岐にわたる法令制定にかかわる調査・分析・将来予測等を手がけ、仕事に追われて気がついたら、80歳に近づいておりました。

その間、数専会とのかかわりでは『東京女子大学数学専攻学科50年の歩み』が最も大きな事業であったと思っております。中屋さんが会長になられたときから、溝口会長の任期が終わるまで副会長として山本敦子さん（S23卒）ともどもお手伝いをさせていただき、50年の歩みの編集委員の方々の多くは会長経験者であり、一兵卒は私どもだけでしたので走り使い等に明け暮れました。同窓生のアンケートにはじまり集計・分析、原稿おこし、全体の編集・校正と進み、印刷屋さんは私の高校の下級生の家業であり、三省堂の辞書部門を主体としていた印刷屋さんに詰め込み、最後の校正が終わったときは着手から2年がたっており、今と違って一字一字文字を拾って並べ印刷する時代でしたから、校正も大変な作業で責了など望めない時代でもありました。

我が家の机には、「東京女子大学数学専攻学科60周年（S62.10.24）」と刻印された卓上時計が今でも時を刻んでおり、過ぎし日のあのころを思い起こしております。最後になりましたが、「数専会」の今後のご発展を祈念して。

### 【会計・会計監査より】

2013 年度の決算を上記のとおり報告いたします。

会長 松本 友子  
会計 可兒 恵子  
青柳 陽子

精査の結果、相違ないことを認めます。

2014 年 5 月 13 日

会計監査 大島 治 美  
吉益 美恵子

### 【会計より】

2014 年度の予算が総会にて上記のとおり承認されました。

今年度も、基金を利用して夏の研修会、秋の講演会を数専会主催で開催致します。その他、基金の有効な利用法がありましたらご提案下さい。

維持運営費の振り込み用紙が同封されている方はお納め下さい。  
(卒後 50 年で完納となります)  
なお、払込み手数料は自己負担でお願いします。

### 【庶務（住所管理担当）より】

転送された手紙を受け取られたら新住所をご連絡下さい。(転送期間は一年です) 改姓、名簿変更などは数専会 HP、葉書、などで必ずお知らせ下さい。クラス会開催等で名簿が必要な時は、ご連絡下さい。

### 【HP 担当より】

数専会の HP では、現在の活動状況や連絡事項、数専会に関わる記事や資料をお読みいただくことが出来ます。「クラス会」のページでは、会員皆さまのご近況を発信しています。

クラス会・同窓会を催される際は、どうぞ写真や簡単な記事を HP にお寄せ下さい。住所変更、出版などの情報も HP からご連絡可能です。「東京女子大学数専会」で検索するか、下記①の URL を入力すると閲覧出来ます。メールでご連絡頂く場合は、下記②のアドレスにお願い致します。

- ①<http://www.geocities.jp/twcumath/index.html>  
②[twcumath@yahoo.co.jp](mailto:twcumath@yahoo.co.jp)

### 【厚生部より】

2014 年度の求人と実績は数専会ホームページの厚生部求人情報をご利用下さい。成約件数が増えるように工夫をしてみたいと思います。

求人・求職希望者は、ご連絡下さい。 前田啓子 (75)

\*\*\*\*\*

### 【パソコン講座 運営管理委員会より】

昨年に引き続き Word2010、Excel2010 の入門、photoshop、ペイントの講座を開設しています。その他、継続講座に関しましても随時会員の募集をしておりますので詳細は、お気軽に数専会までお尋ね下さい。



2014 年度常任幹事

2014 年度勉強会案内

【研究部より】

ゼミ	テキスト	日時(注)	場所	会費/月	世話人
高村多賀子ゼミ(51)	数学の流れ30講(中) (志賀浩二著朝倉書店)	第3 火曜日 10:20~12:20	72 年館	2500 円	早川希伊子 (67)
高校数学					
茶園幸子ゼミ(69) ①・②どちらかのみ の参加も可能	①4STEP 数学Ⅲ+C (数研出版) ②中学受験 算数/プラスワン 問題集	第 2,4 木曜日 午前	武蔵野公会堂	2500 円 程度	可見恵子(76)
横浜教室 *1 吉田萌子ゼミ(48)	4STEP 数学Ⅲ (数研出版)	第 2,4 木曜日 午前	ミュージア川崎研修室 (JR 川崎駅前)	2500 円 程度	勝田啓子(72) 横山知子(72)
吉祥寺ゼミ	クリアー数学演習 I・II, A・ B 受験編 (数研出版)	月 2 回金曜日 午前	武蔵野商工会議所	1000 円 程度	黒河内恵美 (64) 山本紀代子 (64)
パソコン					
My パソコン 戸塚三重子(66)	できる photoshop elements 11 (デジカメデータの整理・編集)	第 1,3 水曜日 午前	72 年館	3000 円	山田洋子(66)
シニアパソコン *2 矢矧かつ子(51)	エクセル・フォトショップ	第 1,3 火曜日 午前	72 年館	6000 円	橋本千枝(56)
多面体 荒木純子(75)	プリント	第 4 木曜日 13:30~15:30	72 年館	500 円 程度	菊島永子(85)
自主ゼミ					
プラムパソコン 荒木純子(75)	Word2010 プリント	第 1,3 木曜日 午前	72 年館	4000 円	高林厚子(61)
パズル講座 荒木純子(75)	なし	第 2 金曜日 午前	72 年館	3000 円 程度	田中和子(68)

\* 1 7 月終了 \* 2 今年度休会 (注)午前:10:00~12:00

来年度、数 I からスタートする勉強会の開講が検討されています。  
詳細は研究部にお尋ねください。 たくさんのご参加をお待ちします。

今年度の夏季研修会は、7月19日(土)同窓会館で開催され、梅雨空の下、多くの方にお集まりいただきました。今回は、名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター准教授・山中佳子(87)先生に『地震を知って備える』と題し講演していただきました。タイムリーな話題を、映像も交え、大変わかりやすく解説して下さいました。

今後の研修会について、ご意見、ご要望がありましたら、研究部までお知らせください。これからも、たくさんの方に参加いただける研修会を、企画していきたいと思っております。

\* 研究部 連絡先 \*  
大井美智子(74)  
\*\*\*\*\*  
廣瀬加代子(74)  
\*\*\*\*\*  
平井 真理(74)  
\*\*\*\*\*

荻田研究室の紹介

理学研究科数学専攻 2 年 小林由佳

荻田研究室には現在、学部生が 5 人、大学院生が 2 人在籍しており、精度保証付き数値解析や数値シミュレーションなどを主な研究テーマとして日々勉強や研究を行っています。研究にはパソコンが必要になるため、研究室には多くのノートパソコンが置かれており、学生はそれらを自由に使用することができます。また、部屋の隅には大型のワークステーションもあり、それを利用した大規模な行列の演算などを取り扱う研究も行っています。研究室にはコピー機や空気清浄機、電子レンジ、冷蔵庫、卒業生から贈られたコーヒーマーカーなど、一通りのものが揃っていてとても過ごしやすくなっています。



ゼミの様子



ワークステーション

荻田先生はコーヒーを飲むことが多く、研究室に入るとコーヒーの香りがしていることが多いです。私たち学生はお菓子をよく持ち込むため、大きいテーブルの上にはお菓子の箱や缶が乗っています。

それから、先生は海外出張に行く度によく帽子を購入してくるので、研究室にある棚には世界各国の帽子やお土産がずらりと並んでいます。30 個近くあるこの帽子ですが、中には珍しい形のものも多く、研究室を初めて訪れる方には驚かれることが多いです。もし訪れる機会がありましたら、是非注目していただきたいと思っております。



お土産の帽子達

## 勉強会『てつ学入門』

佐藤 章江 (75)

振り返ってみれば、卒業後来年で40年が経とうとしています。3人の子も達は巣立ち、仕事をしながらも夫と二人の生活を平穩に送っている毎日ですが、思いがけず数専会だよりの原稿を頼まれました。北海道支部としての活動ではないですが、『てつ学入門』と名づけた同窓生仲間うちの勉強会について書きます。

勉強会は、安井先生のことを知ろうと2007年に始まりました。2か月に1度のペースで、安井先生についていろいろな資料を読みながら感想を話し合い、おやつを食べる時間になっています。年齢層は幅広く転勤等で入れ替わりもあるのですが、だいたい一回に5、6名の参加があります。資料を次々と見つけ出してくださる先輩や昔を知っている先輩達がいらっしゃるおかげで続いていると思います。私などは資料の読み込みも浅く大きな顔はできないのですが、とても貴重な時間です。前回は36回目でした。回を重ねる

ごとに、宿題として資料を読むこと自体が安井先生の人となりにふれる非日常感を味わう時間になり、先生からエネルギーをもらっていると思う気持ちが増えています。不思議なものですね。

勉強会の内容をもう少し詳しくお話ししましょう。随筆集『久堅町にて』では先生の倫理観を知り、『若き日のあと(青山なお氏著)』の野口幽香氏への書簡(巻紙に書かれていることに驚く私たちでした)では、先生の英国留学時代・シャム時代・英国再訪時代の責任感や御苦労などを知りました。派生して、英国での師であるヒュース氏の講義についてや、姉とも慕った野口幽香氏の人生や新渡戸稲造氏のことや学習院関係なども資料として読みました。異色なところでは、先生のつくった童話もありましたし、『戦時下の東京女子大(堀江優子氏著)』もありました。今は『安井てつ伝(青山なお氏著)』を中心に読み進んでいます。そこには、「安井先生は、

日本の国を熱愛して教育者となり—中略—ついにキリストの信仰に導かれてしまったのである。まことに先生らしいことである。」という記述があります。教育者として人間を信じるのができた先生は、どこで教えても生徒に尊敬されファンができていたのです。本当に清々しい先生です。もっと有名になっても良い方ですよと私たちはしばしば話しています。

「東京女子大が創設されたのは奇蹟といえる」という記述もあります。奇蹟の大学に在学中の4年間はのほほんと暮らしていましたが、安井先生のSomethingは熟成期間が必要なのだと勝手に思っているこのごろです。私は、55歳にして教員から心理職という新しい分野に踏み出したのですが、これも女子大卒業生らしさかもしれません。心理職分野で未熟さを感じることもたびたびですが、これからも安井先生へ感謝しSomethingパワーで何とかやっていこうと思います。

## 園遊会のバザーに参加して

速水恵美子 (79)

4月29日に、私達1979年卒の6名は、数専会の売り場のお手伝いをさせていただきました。

6名の中には、本当に久しぶりにお会いした方もありました。でもすぐに学生の頃のいろいろな思い出が不思議にどんどん湧いてきて、楽しかったです。すっかり忘れていたことをお互いに教えあって大笑いをたくさんしました。心はすっかり女子大生に戻って、楽しくお手伝いをすることができました。私の居場所が、ここにあるのだなと思いました。

また、バザーについては、いろいろなものを献品してくださる会員がいらっしゃることや、役員の方々がないにもかかわらず準備をしてくださっていることなど、知らないことばかりでした。皆様本当にありがとうございました。



## 遊びから入る数学その2 (秋の講演会より)

日時 2013年11月16日(土)

於 東京女子大学同窓会72年館

講師 岡部恒治氏

(埼玉大学経済学部名誉教授)

前年度の夏季研修会の続編で、手を動かし頭を動かして知的教育玩具を作りました。上手に出来た人、中々うまくいかなかった人、様々でしたが、日頃休止している頭をフル回転させ、無心になっての2時間でした。



### 【編集後記】

会員の皆様の充実した活動を少しでもご紹介できましたら幸いです。更に多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、数専会維持運営のため、寄付のご協力をお願いいたします。

振込先…東京女子大学同窓会数専会<口座記号番号> \*\*\*\*\*